

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスらいつ		
○保護者評価実施期間	令和8年2月18日		～ 令和8年2月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	令和8年3月1日		～ 令和8年3月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活に根差した活動(おやつづくり、昼食作り、片付け、洗濯、衣服の調節)、学習習慣の形成(宿題や課題プリント)、工作活動、園芸活動(野菜の栽培)、自然観察、公園での遊び、など多彩なプログラムを提供できること。より個々の興味ややってみたいことを実現することをすすめる。	できるだけ、子どもの興味関心から体験活動を実施し、その子ども以外にも広げていけるように意識している。集団活動場面ではソーシャルスキルトレーニングの要素も取り入れて、事前ルール確認、トラブル解決、振り返りなどを組み込んでいる。	個と集団活動の活動バランスをとって、放課後の時間を有効に使えるよう日々のプログラムを改善していく。各分野の専門家をよんで教わることも検討していく。
2	放課後児童クラブの指導経験が豊富な職員が多いため、遊びプログラムの提供に長けている。そのため、子どもたちが遊びにおいて満足感をもつことができる。	室内遊びでは物を媒介にしながらコミュニケーションの輪がひろがるように子ども働きかけている。また外遊びでは遊びの前にルール確認や、トラブル場面は振り返って感情のコントロールができるように支援している。	リーダー的活動や言葉かけができるように成長している子どもに任せる場面を増やす。異年齢活動のよさを活かして低学年の子どもが年上の子どもをモデルに自分の行動や言動を修正できるように働きかける。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者や地域住民との交流機会をまだ設けられていない。	開設まもないため、交流機会を設定する余裕がない。	保護者のニーズを確認し、可能な交流機会や交流方法を検討する。
2	職員の職種や経験年数により支援スキルが若干異なる、特に支援の難しい子どもへのアプローチにとまどうこともある。	子どもの実態把握や行動の背景要因についての理解が異なっていることもある。	日々のミーティングや支援場面の振り返り、研修を通じて職員のスキルアップを行っていく